

## 取付作業手順での重要事項補足

### Step : 1&2

まず最初の作業として、モニターと USB 電源コードを繋ぎ、アクセサリ電源を ON 後、USB 電源コードをシガーソケットに挿入し、モニターを待受け状態にする事。

### Step : 3

センサー識別方法に記述している通りにセンサーをホイールに装着する事。

センサー識別記号 **RF-1** (右フロントタイヤ) からホイールに装着、その後タイヤ組み、適正空気圧迄空気を入れる。

この時に、必ずモニターインジケータ右フロント部がグリーン点灯し、適正空気圧が表示するか確認する事。

### Step : 4

右フロント部に装着する。

### Step : 5

以降、**RR-2**→**LR-3**→**LF4**の順で1本ずつ組み込みをする。

### 最後に以下のチェックを必ず実施の事。

タイヤ1本ずつ空気圧を 1.2×100kpa (120kpa) 迄ゆっくり抜き、当該タイヤのモニターインジケータ部に RED 点灯・ワーニング音が作動するか確認する事。

(確認終了後、適正空気圧迄空気を入れる事。)

# シンプルな取り付け方法

タイヤ空気圧・温度  
モニタリングシステム  
**TP checker**

## Step1 センサーの取り付け

センサー本体をロックボルトとエアバルブで固定します。この際、センサー本体に番号が振りがつておられ、所定の場所に所定のセンサーを取り付けます。



## Step2 専用ナットの締め付け

TPMSを装着する上で重要な取り付け作業が専用ナットとロックボルトの取付です。この工程では、専用ナットで確実にエアバルブをホイールへ固定して下さい。

※固定し終わったら、エアバルブを上下左右に動かす等して、しっかりと固定されているかを確認して下さい。



## Step3 ロックボルトの締め付け

センサーを専用ロックボルトで取り付けます。締め付けトルクが不足すると、センサーから送られる信号をレシーバーがキャッチしにくくなりますので、確実な取り付けを行って下さい。



## Step4 センサーの位置

センサー本体はホイールに当たらない所で固定して下さい。ホイールに当たったままタイヤを組みますと、異音の原因や最悪はセンサーを破損する恐れがあります。



## Step5 タイヤの組み込み

タイヤを組み込む際に、タイヤ本体やタイヤチェーン、タイヤレバーにセンサーを接触させると、センサー及びエアバルブを破損させる恐れがあります。この時十分に注意して、接触・干渉させないように作業を行って下さい。またタイヤを組み込む際はエアバルブとセンサーを4時の位置に置いてから組み込んで下さい。

※タイヤを組み込む際はセンサー部分から組んで下さい。



## Step6 ビードに注意

タイヤの組外しの際に、タイヤレバーやビードが動く事によってセンサーを破損する事があります。特に硬いタイヤやリム幅の大きいホイールには十分注意をして作業を行って下さい。

※ビードを落とす際にセンサー部分から落とさないで下さい。



## Step7 エアを入れます

タイヤが組みあがりましたらホイールに空気を入れます。(窒素ガスも可) 適正空気圧まで空気を充填して下さい。この際にエアバルブからエア漏れが無いかを必ず確認して下さい。

※ビードシーティング圧は適正の300kPaを厳守して下さい。

※JA TMA推奨リム幅&タイヤ幅の製品へお使い下さい。



## Step8 ホイールバランスを取り車両へ装着

TPMSはセンサー本体が軽量な為、バランスウエイトを少なく貼る事が出来ます。タイヤ&ホイールを装着し、TPMS本体の電源を入れば自動的にセンサーが感知し、走行が可能です。



※取付に関してご不明な点などがございましたら、(株)ウェッズ各営業所へお問い合わせ下さい。

※取付不可のホイールがある場合があります。(大口径・超扁平タイヤ等)

車両の装着後にも再度エアバルブ部分のエア漏れチェックを行ってください。

